

# 飼料イネ新品種 「たちあやか」で収穫適期拡大



～ 「たちすずか」と「たちあやか」で労力分散～

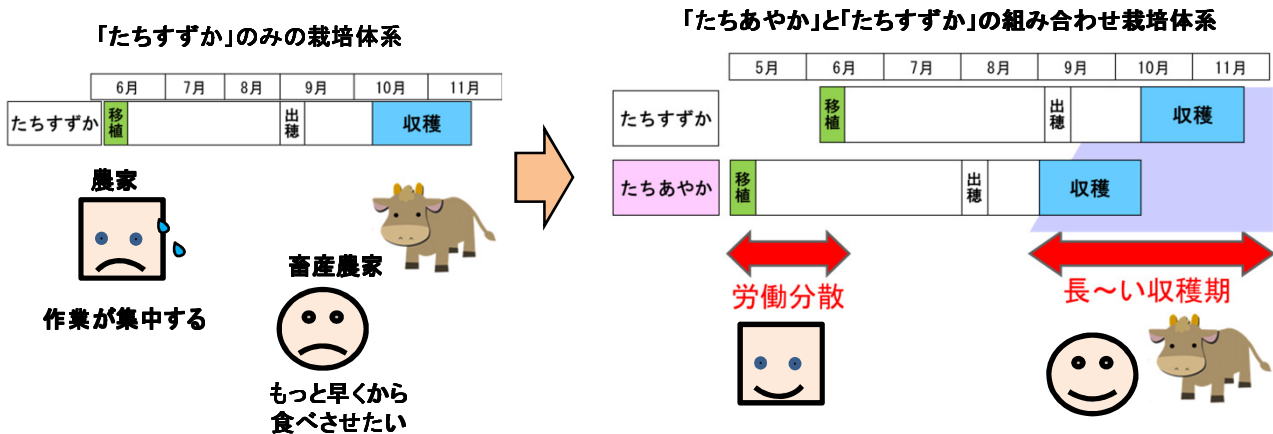
連携機関 | 独立行政法人農研機構 近畿中国四国農業研究センター, 公立大学法人県立広島大学  
研究期間 | 平成24年度[県費研究(開発研究)], 平成25年度[受託研究]

## 研究開発のきっかけ

- ◆ 飼料イネは、家畜飼料の自給率アップと転作による水田の有効活用方法として注目されています。
- ◆ 「たちすずか」は栄養価が高い、優れた飼料イネ品種です。しかし、収穫期が10月中旬以降に限定されるため、長期収穫・労働力分散できる栽培体系が望まれていました。
- ◆ 9月から収穫可能な新品種「たちあやか」を用いて、長期収穫・労働力分散できる栽培体系ができると考えました。

## 研究成果の概要

- ◆ 「たちあやか」の飼料としての栄養価は、「たちすずか」と同等であることを明らかにしました。
- ◆ 5月上旬植えの「たちあやか」と、6月上～中旬植えの「たちすずか」を組み合わせた栽培体系を確立し、田植え期と収穫期の労働分散を可能にしました。
- ◆ 9月上旬～11月下旬までの長い収穫期を実現しました。
- ◆ 「たちあやか」と「たちすずか」を組み合わせた栽培体系は、転作水田の有効活用と高品質な粗飼料の安定生産が両立でき、耕畜連携の取り組み強化につながります。



## 研究成果の活用状況

- ◆ 「たちすずか」は種子生産技術を確立したことで急速に普及し、広島県内の飼料イネ栽培面積の96%、209ha(H25)まで拡大しました。現在試験栽培(6.5ha)の「たちあやか」も栽培面積の拡大を図るため、平成26年度に種子生産技術の研究を行います。